

中国ロケット軍の DF-41 型 ICBM が黒龍江に出現

漢和防務評論 20170404 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

中国のネット上に DF-41 型 ICBM が黒龍江省の大慶市街を移動している映像が掲載されました。

これは米国の大統領選中のことで、中国が意図的に流布したものかどうかは不明です。

韓国への THAAD 配備に対する対抗措置を示唆したものかどうか？漢和の記事を紹介します。

添付の写真は漢和の記事に掲載されたものと同じショットではありませんが、出所は同じと思われるユーチューブから拝借しました。



(出典) YouTube

KDR 平可夫台北報道：

2016 年 12 月、中国のネット上に DF-41 型 ICBM の写真が掲載された。16×16 輪発射車と緑色の防水シートで覆われたミサイル発射筒が繁華街の道路上に出現した。KDR が何度も写真を照合した結果、黒龍江省大慶市の中心部であることを確認した。背景の鉄塔は大慶テレビ放送局の電波発射塔で、建築構造が東京タワーの鉄塔に似ている。付近にテレビ局の建物がある。DF-41 の写真に付随して見える車の車両番号は”黒 EM”であり、これは大慶ナンバーである。M は自家用車ナンバーであり、このような小さな町で自家用車ナンバーの M を見ることは、経済的に富裕であることを示している。ここは石油生産地である。積雪に注目する。大慶市の 2016 年 11 月 7 日の天候は：にわか雪、気温－4 乃至－11 度である。したがってこの写真は 11 月 7 日以降に撮影されたものである。このように分析すると、大慶に出現した DF-41 は、米国向けに配備された第二砲兵（ロケット軍）元第 51 基地の ICBM が大幅に増加したことを意味する。DF-31A 及び DF-41 は全て遼東三省（清代の奉天、吉林、黒龍江省）に配備さ

れている。白昼、大慶の街頭に DF-41 を堂々と出現させたのは、米国を戦略的に威嚇するためか？11月の大統領選で、トランプの”「一つの中国」政策は検討の余地がある”との言辞は大いに中国を刺激した。

元 51 基地には、810 旅団、816 旅団がある。ロケット軍内部の幹部は：内部では、10 旅、16 旅と呼称される。通常 8 の数字は省略される、と述べた。KDR が CCTV が 2016 年に放映した DF-31 部隊の冬季訓練の映像と衛星写真を比較したところ、次のことが確認できた：通化にはすでに DF-31 が配備されている。これは後になって配備されたものである。ここに DF-31 を配備したのは、米国西海岸の多くの都市を攻撃目標とするためである。しかし KDR は、大慶の DF-41 がどの部隊に所属するのか確認できなかった。第二砲兵の ICBM は、発射場間の距離が 100KM 以内であり、長距離機動訓練を行うことはほとんどない。したがって DF-41 は大慶周辺に配備された可能性がある。16×16 輪発射車は自走式で、DF-31/A の発射車は牽引式である。したがって大慶地区の DF-41 は、複雑な地形上に、DF-31 よりも広い範囲に配備された可能性がある。ここに配備された DF-41 は、北極軌道を通して発射され、12000KM 以遠の米国本土の全てをカバーすることができる。わずかにフロリダの一部が攻撃範囲外となる。第二砲兵第 54 基地の信陽には新型の第二砲兵装備格納庫が出現した。相当大型のもので、16 の区間がある。ここでは DF-41 の配備準備が行われている可能性が高い。それが正しければ、DF-41 の 2 番目の部隊が大慶に配備されたことを意味する。実際に大慶市において、2016 年に少なくとも 2 回 DF-41 が街を移動する写真が出現した。

KDR がネット上に現れた大慶テレビ放送塔付近に出現した DF-41 の写真を詳細に分析した結果、発射車は旋回半径が相当小さいことがわかった。道路の歩道部分にはみ出すことはなく、旋回場所の円形の軌跡は直径約 10M であった。自走式発射車は確かに旋回半径が小さい。現在、ロシアと中国だけが SS-25/27 用及び DF-41 用の 16×16 輪自走式発射車を使用している。もし本当に第二番目の DF-41 部隊が存在するのであれば、2017 年になってから、ロケット軍の ICBM の配備速度が大幅に高まることを意味する。通常、1 個 ICBM 旅団は、16 発のミサイルを、32 発の DF-41 を装備する？まず確かなことは：DF-41 は多弾頭であり、大慶に出現した DF-41 の発射筒の頭部フェアリングは楕円形であることだ。弾頭は DF-5B に似ている。多弾頭とは結局何個なのか？これは国際的な論争がある。弾頭の小型化の程度及び中国核実験の回数から分析すると、KDR は DF-41 の多弾頭の数量は控えめに見て 2 乃至 3 個を超えないと考える。各個の弾頭は、およそ重量が 400 乃至 500KG である。32 発の DF-41 は 64 乃至 96 個の核弾頭を携行することができる。言い換えれば、1 個 DF-41 ミサイル旅団の戦闘力は、単弾頭の DF-31 を携行するミサイル旅団 2 乃至 3 個に相当する。DF-31/A を実戦配備する旅団の数は全体で 4 個旅団以下である。

以上